

味の素株式会社(2802)
2017年3月期業績予想と今後の展望

2016年11月8日

取締役社長 最高経営責任者
西井 孝明

目 次

I. 2017年3月期 予想概況	P1
2017年3月期 修正予想	P2
2017年3月期 修正予想:対期首予想営業利益の増減要因	P3
2017年3月期 修正予想:対前年実績営業利益の増減要因	P4
2017年3月期 上期、下期見込み:対前年実績営業利益の増減要因	P5
セグメント別修正予想概要	P6
2017年3月期 経常利益、純利益修正予想	P7
目指す営業利益の構成	P8
「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」に向けたロードマップ	P9
II. GROW 成長モメンタムの加速化	P10-18
III. FIT 更なる事業構造強化	P19-20
IV. 2017年3月期 財務戦略	P21-22
V. 次期中期経営計画	P23-24
参考資料 コモディティ事業のスペシャリティ化他 別添 2017年3月期セグメント別修正予想	

I . 2017年3月期 予想概況

2017年3月期 修正予想

2014-2016中期経営計画最終年度は、為替影響、飼料用アミノ酸の市況低迷により、売上高・営業利益ともに下方修正。

単位:億円	FY2016 修正予想	FY2016 期首予想	修正額	前年比
売上高	10,950	11,860	▲ 910	92.4%
営業利益	815	910	▲ 95	89.6%
親会社帰属当期純利益	445	510	▲ 65	70.1%
一株あたり当期純利益 (円)	77.83	89.08	▲ 11	72.1%

<参考>のれん償却影響を除く

のれん償却(億円)	64	68	▲ 4	93.4%
のれん償却前営業利益(億円)	879	978	▲ 99	89.8%

■ 売上高

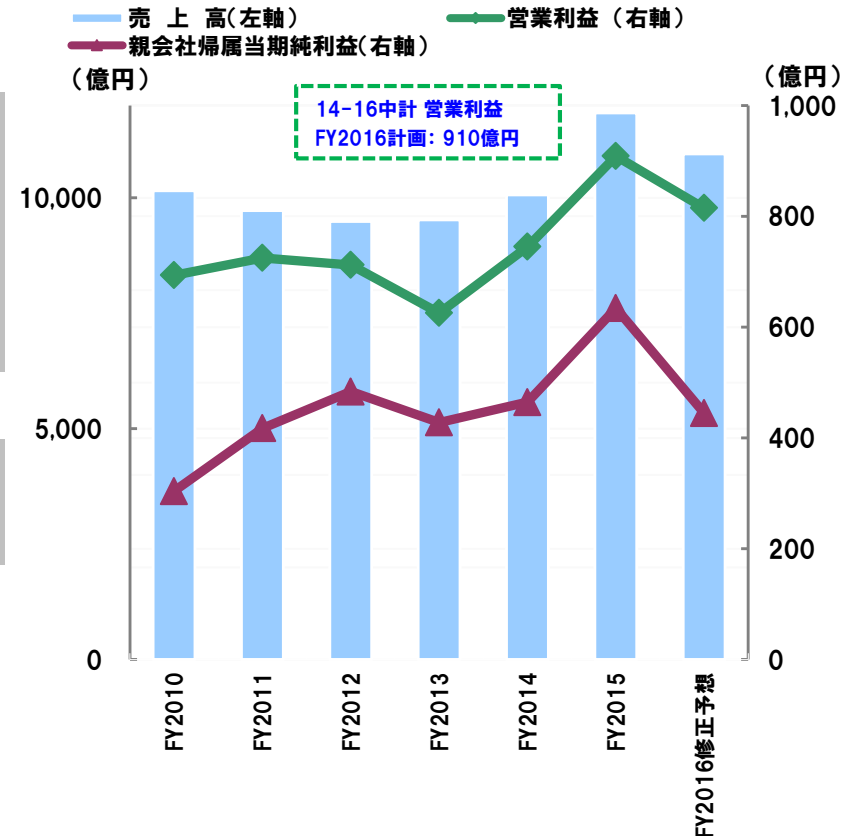
▲: 為替影響、飼料用アミノ酸の市況低迷

■ 営業利益

▲: 為替影響、飼料用アミノ酸の市況低迷

■ 親会社帰属当期純利益

▲: 特別損益減



※売上高はFY2011より販促値引き等を控除した新基準。

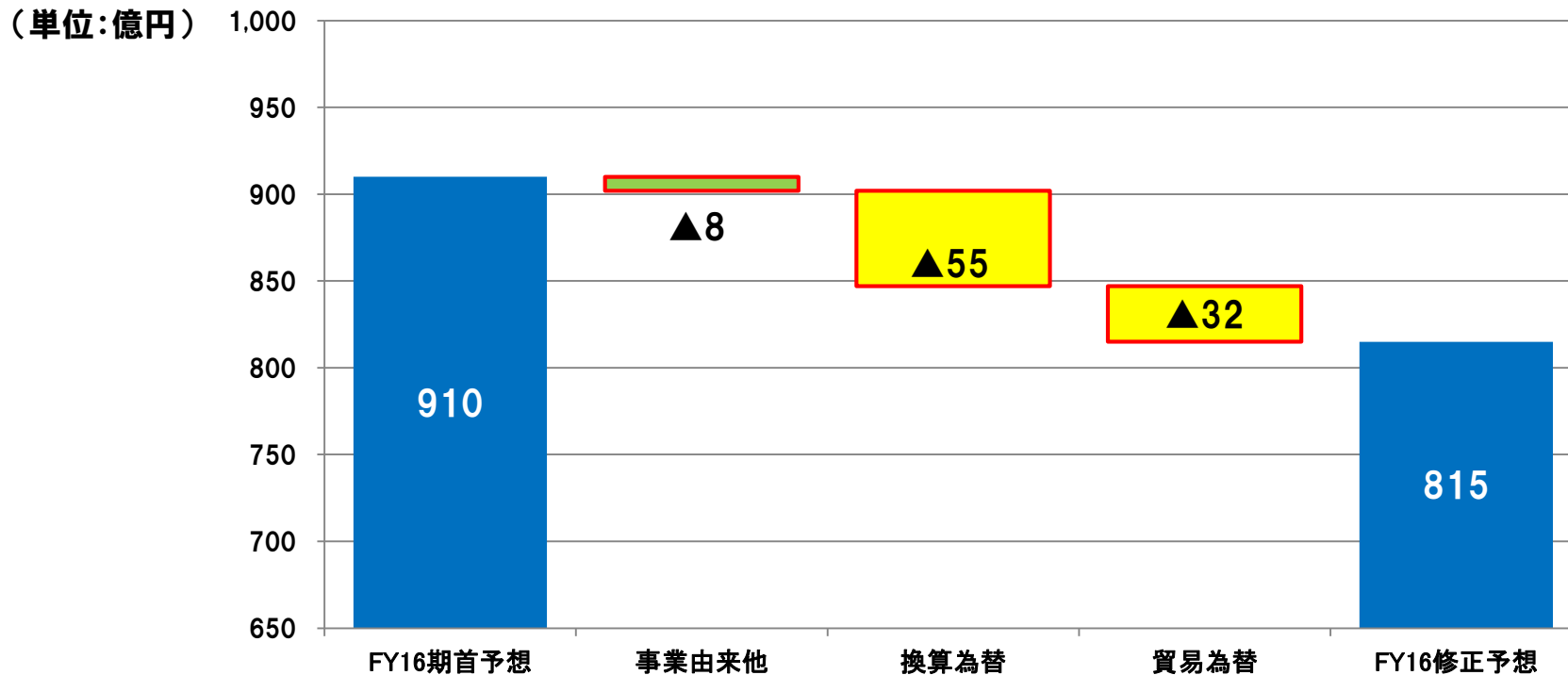
2017年3月期 修正予想:対期首予想営業利益の増減要因

為替は円高により損サイドに大きく影響。
原燃料は期首予想に対し、
益サイドで進行。更なる採算性向上の
取り組みを推進し、修正予想を達成する。

為替前提（対円）

	FY2016 修正予想	FY2016 期首予想	FY2016 上期実績*	FY2016 下期見通し	FY2015 実績*
USD	103.5	110.0	105.2	101.8	120.2
EUR	114.5	123.0	118.0	111.0	132.6
THB	2.95	3.20	3.00	2.90	3.44
BRL	28.7	30.3	31.2	26.2	33.5

*期中平均レート



2017年3月期 修正予想：対前年実績営業利益の増減要因

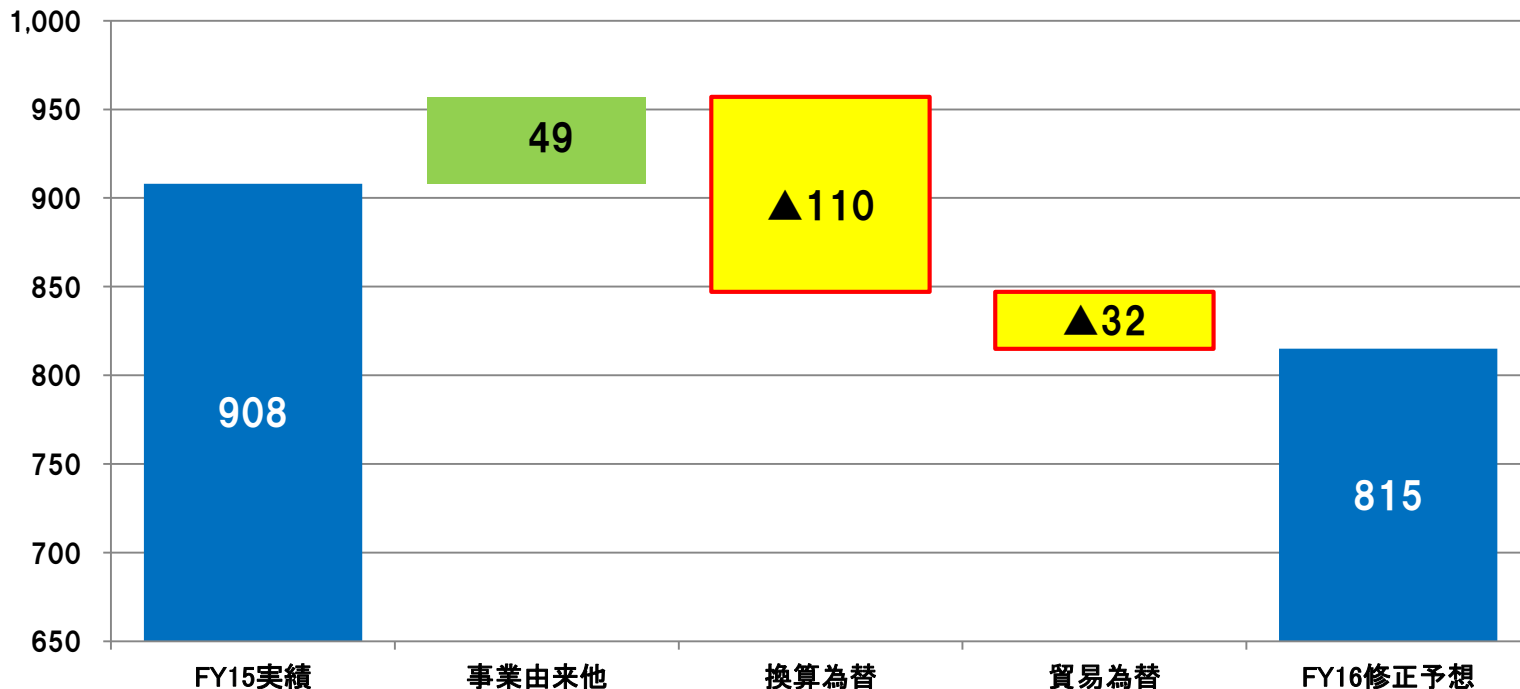
為替影響大きくも、事業由来等は着実に伸長。対前年実績は為替の影響を除き、増収、増益。

為替前提（対円）

	FY2016 修正予想	FY2016 期首予想	FY2016 上期実績*	FY2016 下期見通し	FY2015 実績*
USD	103.5	110.0	105.2	101.8	120.2
EUR	114.5	123.0	118.0	111.0	132.6
THB	2.95	3.20	3.00	2.90	3.44
BRL	28.7	30.3	31.2	26.2	33.5

*期中平均レート

（単位：億円）



2017年3月期 上期、下期見込み:対前年実績営業利益の増減要因

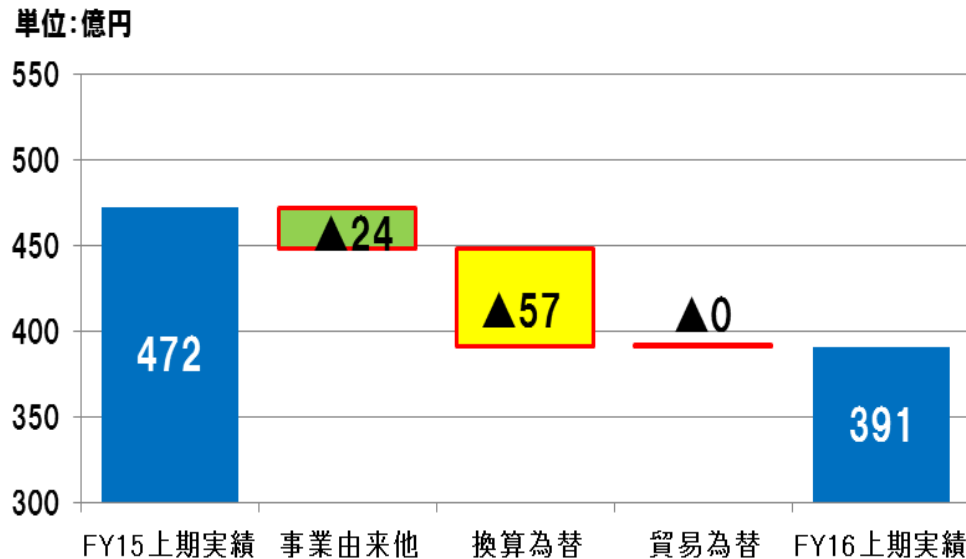
上期は換算為替および飼料用アミノ酸の市況低迷の影響が大きく、大幅減益。下期も同環境の下、スペシャリティ等の伸長により、修正予想を達成する。

為替前提（対円）

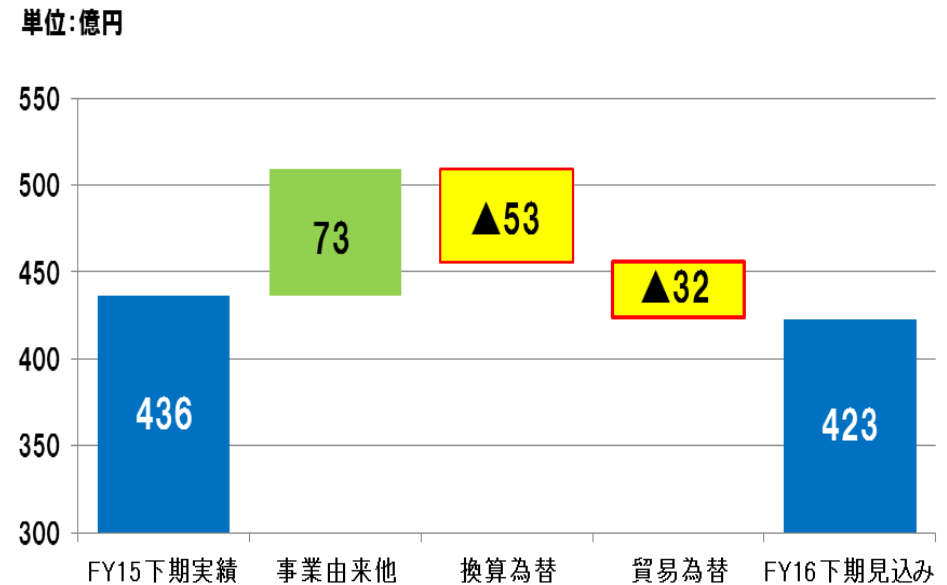
	FY2016 上期実績*	FY2016 下期見通し	FY2015 実績*
USD	105.2	101.8	120.2
EUR	118.0	111.0	132.6
THB	3.00	2.90	3.44
BRL	31.2	26.2	33.5

*期中平均レート

<FY16上期実績>



<FY16下期見込み>



セグメント別修正予想概要

(単位:億円)

	2017年3月期		2017年3月期		修正額 (A) - (B)	2016年3月期		対前年増減額・率		対前年増減額・率★	
	修正予想 (A)	営業 利益率	期首予想 (B)	営業 利益率		実績 (C)	営業 利益率	(A) - (C)	(A) / (C)	増減額 (除く 為替影響)	増減率 (除く 為替影響)
売上高	10,950		11,860		▲ 910	11,841		▲ 891	▲7%	83	0%
日本食品	4,030		4,118		▲ 88	3,970		59	1%	71	1%
海外食品	4,144		4,668		▲ 524	4,639		▲ 495	▲10%	211	4%
ライフサポート	1,245		1,452		▲ 207	1,424		▲ 179	▲12%	▲ 32	▲2%
ヘルスケア	916		980		▲ 64	895		20	2%	112	12%
その他	615		642		▲ 27	911		▲ 296	▲32%	▲ 279	▲30%
営業利益	815	7.4%	910	7.6%	▲ 95	908	7.6%	▲ 93	▲10%	16	1%
日本食品	370	9.1%	352	8.5%	18	306	7.7%	63	20%	68	22%
海外食品	361	8.7%	414	8.8%	▲ 53	419	9.0%	▲ 58	▲13%	24	5%
ライフサポート	45	3.6%	117	8.0%	▲ 72	118	8.2%	▲ 73	▲61%	▲ 63	▲53%
ヘルスケア	63	6.8%	58	5.9%	5	57	6.3%	5	10%	17	30%
その他	▲ 24	-3.9%	▲ 31	-4.8%	7	7	0.8%	▲ 31	-	▲ 30	▲287%
経常利益	837		916		▲ 79	941		▲ 104	▲11%		
親会社帰属当期純利益	445		510		▲ 65	634		▲ 189	▲29%		
為替レート	円/USD	103.5	110.0			120.2					
	円/ユーロ	114.5	123.0			132.6					

☆2017年3月期からのセグメント変更点(前年実績組替済み)

- 1) 日本食品:ヘルスケア「その他」に含まれていた「ニュートリションケア事業」を「調味料・加工食品」へ。
- 2) 海外食品:同セグメント内移管。「甘味料海外リテール事業」を「甘味料」から「調味料・加工食品」へ。
- 3) ヘルスケア:従来の「医薬事業」はEAファーマ社発足により、計上方法変更
- 4) その他:医薬事業関連費用計上。

★為替影響を除いた場合の前年増減率。為替は換算為替を示す。

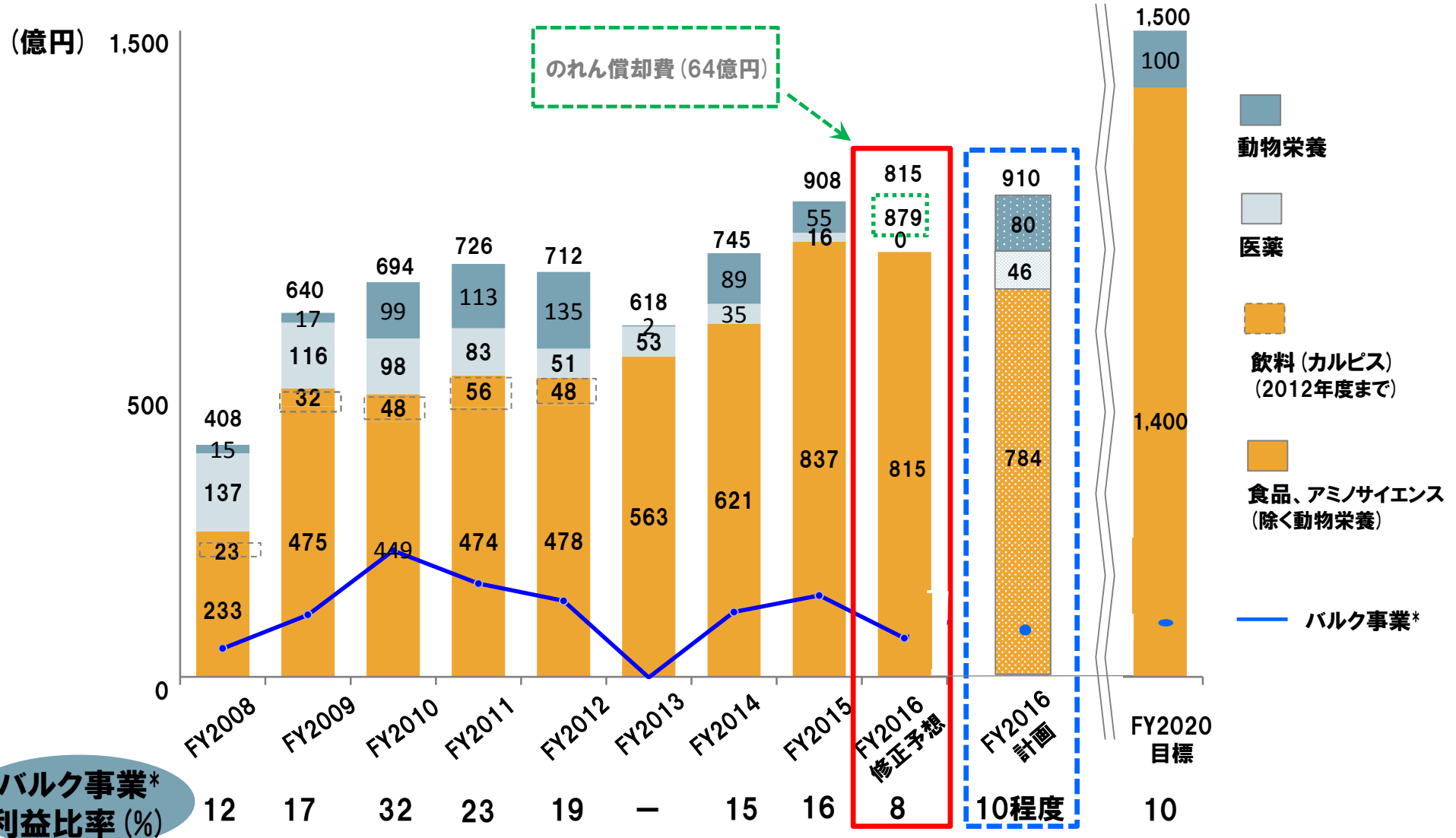
2017年3月期 経常利益、純利益修正予想

経常利益、当期純利益は減益。特別損益、下方修正。

(億円。▲が損。)	FY2016 修正予想	FY2016 期首予想	差異	FY2015 実績	主な内容
売上高	10,950	11,860	▲ 910	11,841	
営業利益	815	910	▲ 95	908	
営業外収支(▲損)	22	6	16	32	
受取利息	25	23	2	28	
受取配当金	11	10	1	13	
持分法投資損益	28	15	13	15	
支払利息	▲ 25	▲ 26	1	▲ 22	
その他	▲ 17	▲ 17	0	▲ 2	
経常利益	837	916	▲ 79	941	
特別損益(▲損)	▲ 51	▲ 32	▲ 19	60	
投資有価証券売却益	25	-	25	-	政策保有株式売却
段階取得に係る差益	-	-	-	180	FY2015 AGF社
固定資産除却損	▲ 11	-	▲ 11	▲ 27	
持分変動損失	▲ 11	-	▲ 11	-	EA7アーマ社
関係会社整理損	-	-	-	▲ 69	FY2015 甘味料仏工場
その他	▲ 54	▲ 32	▲ 22	▲ 24	
税金等調整前当期純利益	786	884	▲ 98	1,001	
法人税等	244	273	▲ 29	270	実効税率 FY15:26.9%、FY16期予30.8%、修予:31.0%
当期純利益	542	611	▲ 69	731	
非支配株主に帰属する当期純利益	97	101	▲ 4	96	
親会社株主に帰属する当期純利益	445	510	▲ 65	634	

目指す営業利益の構成

～ バルク事業比率をコントロールし、全事業で「スペシャリティ」を追求することで利益の質を高める ～

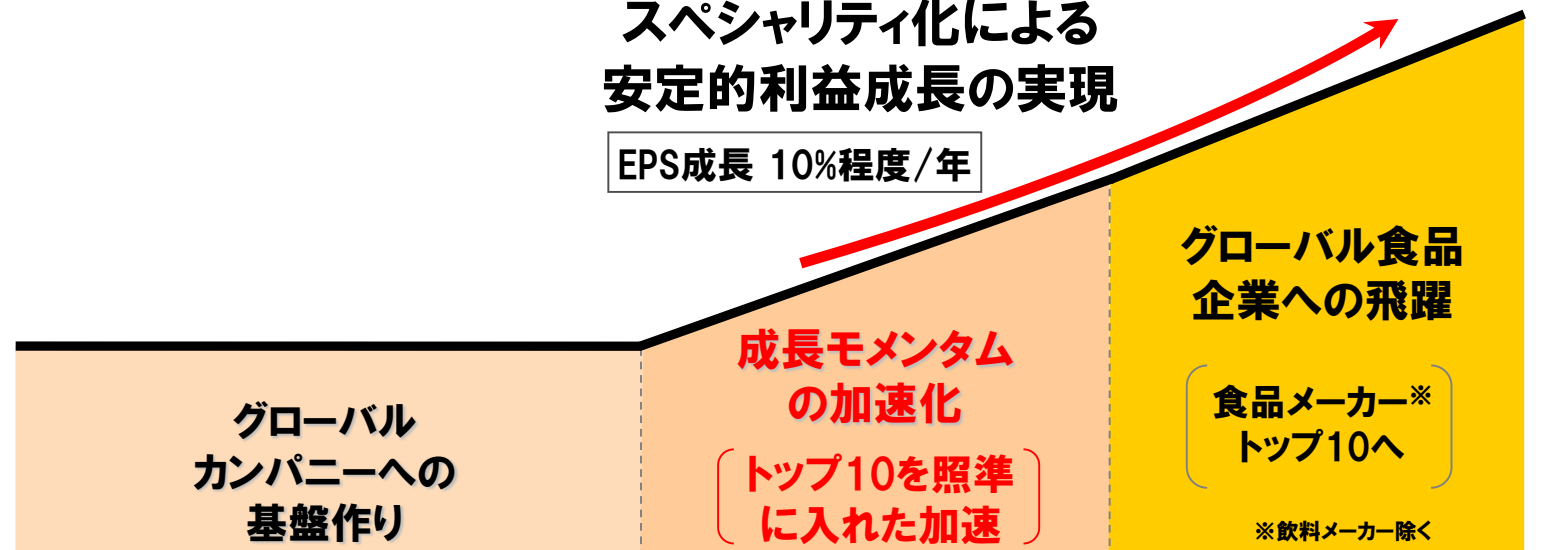


* バルク事業:加工用うま味調味料、動物栄養、甘味料

「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」に向けたロードマップ
～ グローバルトップ10を照準に入れ、成長を加速させる ～

スペシャリティ化による
安定的利益成長の実現

EPS成長 10%程度/年



	FY2011	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015	FY2016	FY2020～
	実績	実績	実績	実績	実績	修予 期予 (目標)	(目指したい姿)
営業利益:億円	726	712	618	745	908	815 910 910	1,500
営業利益率%	7.5	7.5	6.5	7.4	7.6	7.4 7.7 8	10
ROE	6.9%	7.8%	7.1%	7.4%	9.8%	7.4% 8.1% 9%	10%～
EPS	61.3円	74.4円	68.7円	78.5円	107.86円	77.83円 89.08円 100円	150円
のれん償却費除く営業利益:億円*1 (営業利益率:%)				753 (7.5)	978 (8.2)	879 (8.0) 978 (8.3)	
のれん償却費除くROE*1				7.4%	10.7%	8.2% 9.0%	
のれん償却費除くEPS*1				79.4円	117.57円	86.94円 98.78円	
バルク事業利益比率*2	23%	19%	—	15%	16%	8% 15% 10%程度	10%

*1 のれん償却費を除いて算出した参考値。

*2 バルク事業:加工用うま味調味料、動物栄養、甘味料。

II. GROW 成長モメンタムの加速化

(1) 成長ドライバー

海外食品 / 調味料・加工食品、冷凍食品

(2) 安定成長事業

日本食品 / 冷凍食品、コーヒー類

(3) 事業強化

ヘルスケア / その他

(4) トピックス

(1) - 1. 海外コア展開国“Five Stars”の飛躍的成長で、日本に次ぐ国・エリアの柱をつくる

2倍、3倍を目指す“Five Stars”:対象5法人における既存事業の安定成長と積極的な事業領域拡大

○ : 2020年度に向けた売上げ拡大規模 (対2012年度、現地通貨ベース)



- 中間～上流所得層の拡大
- 食生活/チャネルの近代化

◆調味料事業

<2017年完工予定、投資総額約100億円>

「味の素®」、風味調味料の安定拡大 & メニュー用調味料の大幅伸長に対応した生産能力増強

ベトナム「味の素®」
約20%増強

栄養バランスを考慮した
継続的なメニュー提案
に伴う需要増

✓ 供給体制強化

タイ「Ros Dee®」
約40%増強

包装工程の自動化・
異物混入防止、
トレーサビリティ強化

✓ 生産効率向上、
品質管理の徹底

インドネシア「Masako®」
約30%増強、
「Sajiku®」
約80%増強

「安心安全」の発信強化
工場見学者通路の設置

✓ Specialtyの
更なる推進

Five Stars	当社伸長率 現地通貨ベース	うま味調味料伸長(当社推計:重量)		風味調味料伸長(当社推計:重量)	
	FY16上期	市場(FY16Q1)	当社(FY16上期)	市場(FY16Q1)	当社(FY16上期)
タイ	99%	102%	101%	104%	105%
ブラジル	134%	85%	102%	93%	102%
インドネシア	112%	101%	104%	121%	109%
ベトナム	110%	102%	109%	101%	101%
フィリピン	106%	102%	104%	98%	114%

II. GROW 成長モメンタムの加速化（海外食品/調味料・加工食品）

(1) -2. 海外最大拠点タイの状況

タイ国内、調味料は堅調 ～ミャンマーは新法人を設立し、新たなステージへ～

タイ:タイ国内の調味料は外食需要の喚起により、堅調に拡大。

加工食品は新商品の発売、既存品の強化で巻き返しを図る。

ミャンマー:為替安と競合の激化で苦戦

	4-9月 前年同期比	カテゴリ別実績
タイ国内	100%	うま味調味料101%、風味調味料105% メニュー用調味料115% 飲料97%、粉末飲料90%、即席麺101%
ミャンマー	87%	うま味調味料100%、粉末飲料78%

ミャンマー味の素食品社を2016年2月に設立し、ミャンマー国内での「味の素®」の包装と販売体制構築を実現させる。

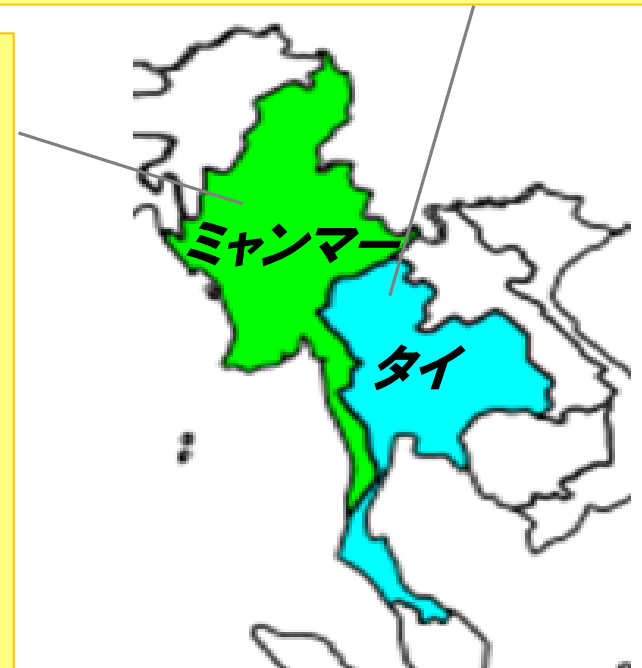
- ・2016年秋、「味の素®」包装工場建設開始予定
- ・2017年秋、「味の素®」包装・販売開始予定



ミャンマーの市場



油カレー「ミャンマー・ヒン」



II. GROW 成長モメンタムの加速化(海外食品/冷凍食品)

(1) -3. 味の素ウインザー社: 北米冷凍食品事業の取り組み~シナジー創出

販売拡大、収益構造の強化

- ◇強化された顧客基盤を活かした販売拡大
- ◇味の素グループの開発技術導入での主力品全面改訂

- 旧ウインザー社の顧客基盤を活用し冷凍麺、米飯が引き続き伸長
- 現地、日本のグループR&D合同チームで品質向上取組完了、現在導入に向け商談中



技術導入
予定品

「味の素グループ総合力の発揮でシナジー創出」

- ◇KAIZEN活動と低収益アイテム整理で収益構造を強化

- 味の素グループ支援による現地での生産技術研修、KAIZEN活動の進展により、工程改善が着実に進む。
- 低収益アイテムの整理 (2016年度上期: 1,154品中44品を終売)



コンベア改良前



コンベア改良後



アメリカでの改善発表会

冷凍麺・米飯の生産基盤の強化

- ◇独自コンセプトの“調理冷凍麺”を市場投入

- 東洋水産(株)との合併で、味の素東洋フローズンヌードル社設立
- ・2015年4月

- 新製品発売

「AJINOMOTO® TOKYO STYLE SHOYU RAMEN WITH CHICKEN」

・2016年10月



新製品



味の素東洋フローズンヌードル社



オークランド工場生産品



オークランド工場

- ◇“冷凍米飯”の増産体制を1.5倍に強化

- オークランド工場に生産ライン新設
- 東西2拠点化で効率的な全米供給体制に
- ・2015年9月着工・2016年6月工場稼働

(2) - 1. 国内冷凍食品市場環境および今後の見通し

市場環境 / 上期レビュー

家庭用市場 (2016年 味の素冷凍食品(株)調べ)

調理冷凍食品市場は前年比103%と堅調に推移。食卓市場は拡大し、弁当市場は停滞。

業務用市場 (2016年 味の素冷凍食品(株)調べ)

業務用市場は堅調に推移。惣菜を中心に拡大し、外食・給食は微増。

■国内冷凍食品事業

上期の売上高は家庭用、業務用とも増収を確保し、順調に拡大。

◆家庭用

圧倒的な品質訴求とプロモーションを展開。「ギョーザ」はトライアル増加で前年を大きく上回り、「ザ★チャーハン」は好調を維持。

◆業務用

デザート類、餃子類、鶏肉加工品等のコア品群を中心に拡大。

今後の見通し

■引き続き拡大を見込む。

◆家庭用

コア製品群拡売、新製品の定着、拡大に加え、好調「ザ★チャーハン」に続き、12月に新製品として「ザ★シュウマイ」を発売。



メインのおかずになる新製品で弁当市場を活性化させ、好調「ザ★」シリーズの横展開を図る。

◆業務用

デザート類、餃子類、鶏肉加工品等のコア品群を拡大し、伸長する大手需要家との取り組みを推進。



パティシエ仕様の高品質なデザートや、手間が大幅に改善される連結タイプの餃子等を提案。

II. GROW 成長モメンタムの加速化（日本食品/コーヒー類）

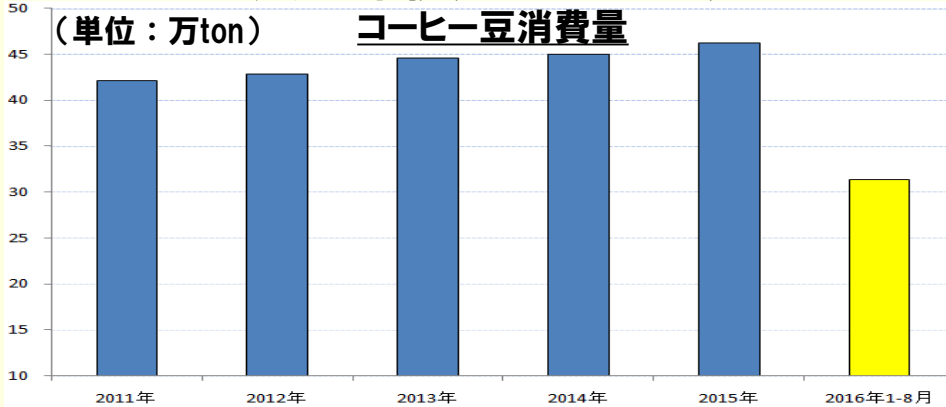
(2) -2. 味の素ゼネラルフーズ(株): コーヒー事業の取り組み

市場環境 / 上期レビュー

◆ 日本のコーヒーは安定的に拡大

・4年連続消費量更新(2015年)

・1-8月も順調に推移(前年比103%)



(出典: 全日本コーヒー協会)

・家庭用: パーソナル領域(スティック、パーソナルレギュラーコーヒー)が牽引し堅調に推移

・業務用: CVSカウンターコーヒーの成長は緩やかになるも、外食市場全体で安定成長

◆ GB相場: ドルベースでの相場価格上昇も、円高進行により想定内で推移

今後の取り組み

◆ JapaNeeds Coffee® の進化と「煎」育成

- 上期の先行投資

・伊勢志摩サミットで「煎」アピール

・全国和菓子協会と連携し

「珈琲♡和菓子アワード」を展開

- 下期も更に施策を充実

・和食・和菓子 & 「煎」コラボ



◆ ライセンスを受けている「Blendy」「MAXIM」等の全商標をJacobs Douwe Egbertsのグループ会社より、約259億円で取得

(10月31日付け

プレスリリース済み)



- 重要ブランドの自社所有により、積極的なブランド投資等で更なる企業価値の向上を実現

◆ グループシナジー

- 国内販売協業/ギフト事業統合開始

- 海外における新領域、新エリア検討加速

(3) 事業強化:アミノ酸で健康サポート

◆エビデンスに裏付けられたアミノ酸ベースの製品を展開。

スポーツする方のサポート「アミノバイタル®」

・スポーツ栄養科学研究のエビデンスに裏付けられた高機能なアミノ酸スポーツサプリメントを展開。

- ✓ 筋肉のコンディショニング等に役立つBCAAなどアミノ酸を配合。
- ✓ 1995年発売から売上高が3倍に伸長。

・リオ五輪に続き、東京五輪でも「アミノバイタル®」、調味料・加工食品等の製品で栄養サポート(「ビクトリープロジェクト®」)予定。



新たな領域*で生活者のサポート、機能性表示食品

・当社独自のアミノ酸の知見を活用し、日常の健康課題解決に取り組む。



*睡眠領域

「グリナ®」

2015年8月発売



*筋肉維持
サポート領域

「アミノエール®」

2016年4月発売



*疲労感軽減
(頭の冴え・注意力
低下)

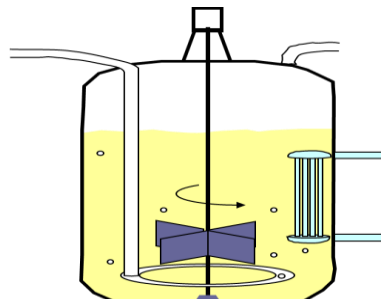
「毎朝ヒスチジン」

2017年春発売予定

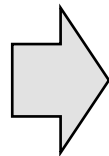
(4) - 1. トピックス: 長谷川香料(株)との業務提携進捗

発酵ナチュラルフレーバー(バニリン)をラボスケールにて成功、工業化段階へ。来年度、サンプル提供を目指す。

発酵ナチュラルバニリンの製造プロセスイメージ

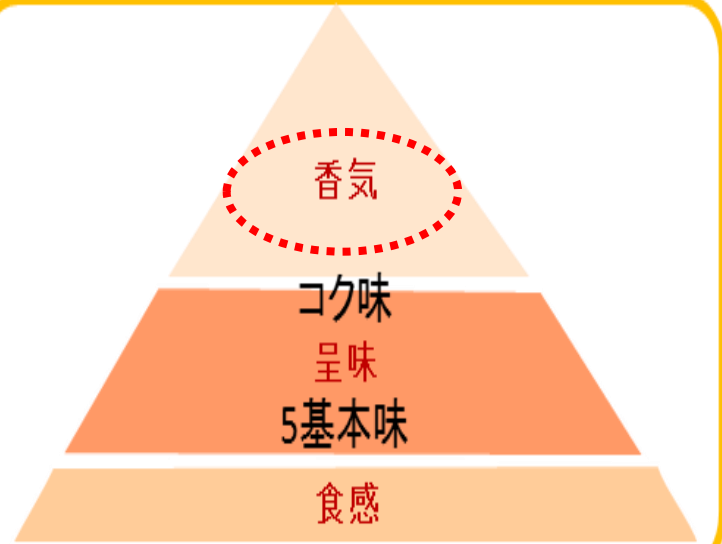


味の素(株)発酵技術(糖源+微生物)
& 長谷川香料(株)製剤、精製技術



発酵ナチュラルバニリン

総合的な「おいしさ」実現



◆フレーバー市場は欧米中心にナチュラル志向により成長。

<2020年見込み>

- ・フレーバー市場計 : 約15,100百万米ドル(約1.6兆円)、年率5-6%伸長
- ・内 ナチュラルフレーバー市場: 約6,000百万米ドル(約6,300億円)、年率6%伸長
→ 欧米大手製菓、飲料メーカーによるナチュラルフレーバーへの切り替え
表明が加速。



(4) -2. トピックス: アフリカ事業基盤強化～プロマシドール・ホールディングス社株式33.33%取得

プロマシドール・ホールディングス社(以下、プロマシドール社)のアフリカにおける強固な販売基盤と当社の幅広い製品開発力・生産技術力を組み合わせることで、アフリカ全域における事業基盤の強化を図り、同社と共にアフリカ市場におけるリーディングプレイヤーの地位を中長期的に確立する。

(2016年11月8日付けプレスリリース)

*1米ドル=104.86円(2016年10月末)

<本出資の目的>



**アフリカにおける
強固な販売基盤**



**幅広い製品開発力・
生産技術力**

**プロマシドール社と共にアフリカ市場に
おけるリーディングプレイヤーの地位を確立
“アフリカの豊かな食生活への貢献”**

<プロマシドール社概要>

- ・設立時期: 1979年
- ・売上高 : 673百万米ドル* (2015年度)
- ・従業員 : 約4,000人(2016年10月現在)
- ・事業内容: 粉ミルク、粉末飲料、風味調味料、シリアル等の生産・販売
- ・取得価額: 532百万米ドル(約558億円*) / 株式33.33%分



● : プロマシドール社 主要展開国
■ : プロマシドール社 展開国
● : 当社既存現地法人

<粉ミルク> <粉末飲料>



<風味調味料> <シリアル>



III. FIT 更なる事業構造強化

動物栄養

コモディティバルクのスペシャリティ化

動物栄養事業のスペシャリティ化の取り組み

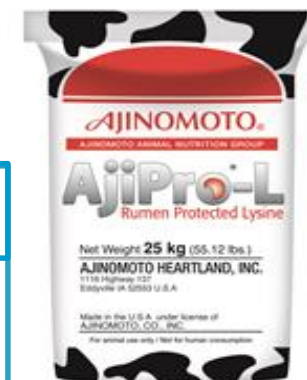
1. 「AjiPro®-L」取り組み状況

市場環境

- 主要市場である北米での「乳価」の長期低迷と「血粉価格」の低価安定
 - ・長期的な乳価低迷により、高価蛋白原料(血粉など)の需要が激減。
 - ・血粉価格の歴史的安価により、血粉代替で「AjiPro®-L」を使用するフォーミュレーション変更が想定通りに進まず。
- 欧州市場: 血粉使用がない欧州市場での認可取得に目途。

売上進捗

- 年間販売数量6,500トンの目標に対しては大幅未達。
 - ・リジン有効率25%アップの第三世代品を導入(8月~)
 - 血粉よりコスト的に優位となり価格受容性向上
 - 粒径が小さくなり飼料混合性改善(蛋白プレミックスの可能性)
 - ・上記効果により、既存顧客での使用量増加、新規顧客数増加など販売数量拡大に繋がっている。



「AjiPro®-L」

2. リジン、スレオニン等コモディティ事業の一層のコストダウンと構造改革を強化する。

IV. 2017年3月期 財務戦略

2017年3月期 財務戦略～ 成長投資と株主還元 ～

2014-2016中期経営計画の方針に変更なし。営業キャッシュフローを成長投資に優先的に投下、2016年度増配予定。

フリーキャッシュフローの創出

営業利益、当期純利益拡大

売上高EBITDA率: 12%水準

成長投資へ傾斜配分

M&A、提携の積極活用

プロマシドール社株式
33.33%取得: 約558億円

設備投資の重点化

株主還元

目標配当性向: 30%

FY2015 **28円/年**

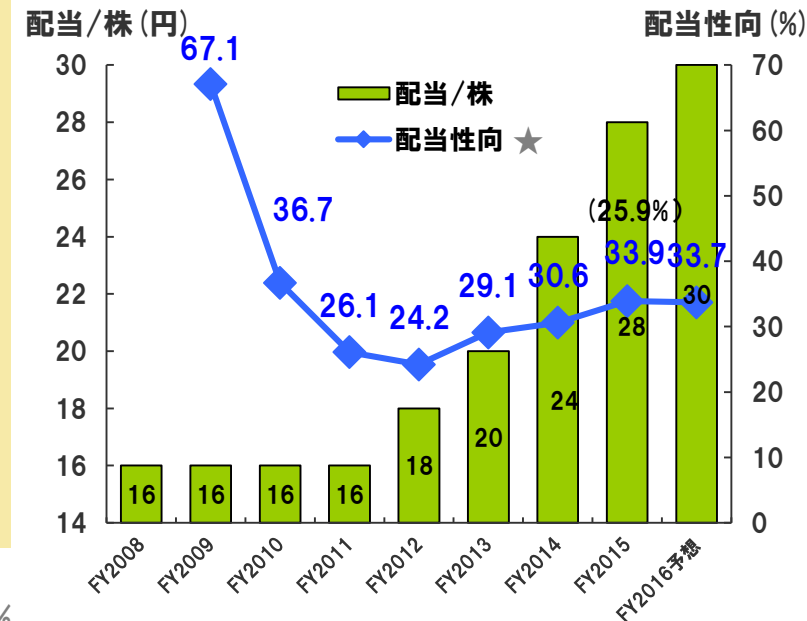
FY2016予想 **30円/年**

総還元係数: 50%を目処
機動的に自己株式取得検討

<キャッシュフロー用途の優先順位と株主還元の方針>

- ・成長投資案件: 自社にて様々な可能性を検討。
- ・フリーキャッシュフロー目標: 1,200億円 (3年間)
- ・資金調達: 有利子負債 (ネットD*/Eレシオは上限50%)
*ネットDは有利子負債ー現預金×75%
- ・配当性向: 単年度 30%
- ・総還元係数: 2014-2016中期経営計画期間(3年間)
累計 71%見込み
- ・自己株式: 2014年度 25億円、2015年度 300億円
取得実績 2016年度 300億円

★日清味の素アリメントス社の持分譲渡で得た特別利益を分母に含めない前提
日清味の素アリメントス社の持分譲渡で得た特別利益を分母に含めると25.9%



V. 次期中期経営計画

次期2017-2019年度中期経営計画策定

～財務目標と非財務目標が一体となった「ASV統合目標」策定～

■発表日:2017年2月17日

■財務目標:IFRSベースで策定

グローバル食品企業トップ10クラスへ

- ・ グローバル企業レベルの事業と利益の規模
- ・ 利益を生み出す世界水準の効率性

- ・ 人と地球の未来の進歩に貢献
- ・ 世界一のコアな技術・事業領域
- ・ 世界レベルの多様な人財力

コーポレートブランド

統合目標

財務目標 (経済価値)

非財務目標 (社会価値)

(E) 環境

(S) 社会

(G) ガバナンス

持続的な投資、良い職場環境と処遇

ASVサイクル

更なる社会価値、自己実現と働きがい向上

事業戦略 (事業活動)

スペシャリティの追求

Specialty

- ・ 先端バイオ・ファイン技術が先導する、確かなグローバル・スペシャリティ食品企業グループへ

成長のドライバーの展開 **GROW**

- ・ 地域拡大の加速
- ・ 新たな事業の柱の構築

更なる事業構造強化 **FIT**

- ・ 継続的な事業構造改革
- ・ グループ共通機能の構造改革

経営基盤の進化 (経営イノベーション)

- ・ ガバナンス
- ・ 人財
- ・ 組織風土

參考資料

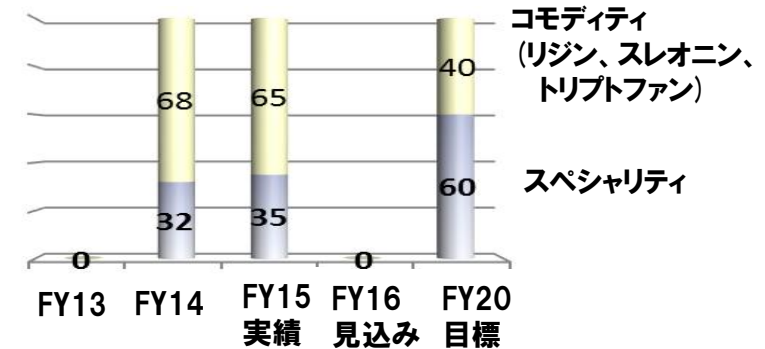
コモディティバルク事業のスペシャリティ化 ～ バルク依存度の低減 ～

動物栄養

コモディティ低迷もスペシャリティ貢献

- ・「AjiPro®-L」:顧客開拓を加速し、販売拡大を目指す。
- ・バリン:SwineおよびBroiler向けのテクニカルプロモーションを展開し、着実に市場を拡大中。

動物栄養 (営業利益構成比。%)



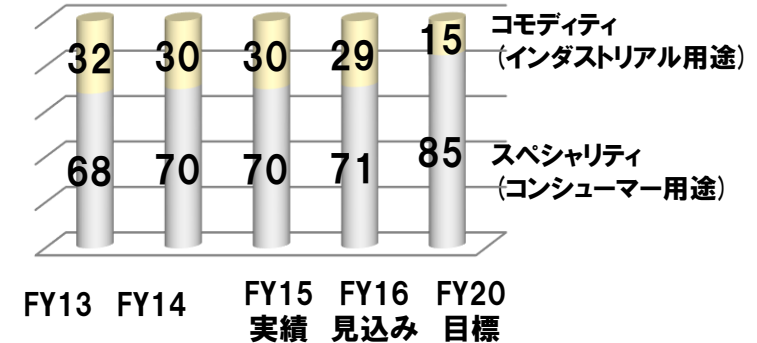
加工用うま味調味料

FY2015 70% ⇒ FY2016 71%

リテール「味の素®」、風味調味料、メニュー用調味料が伸長。

バルクはコストダウンで事業構造強化継続。

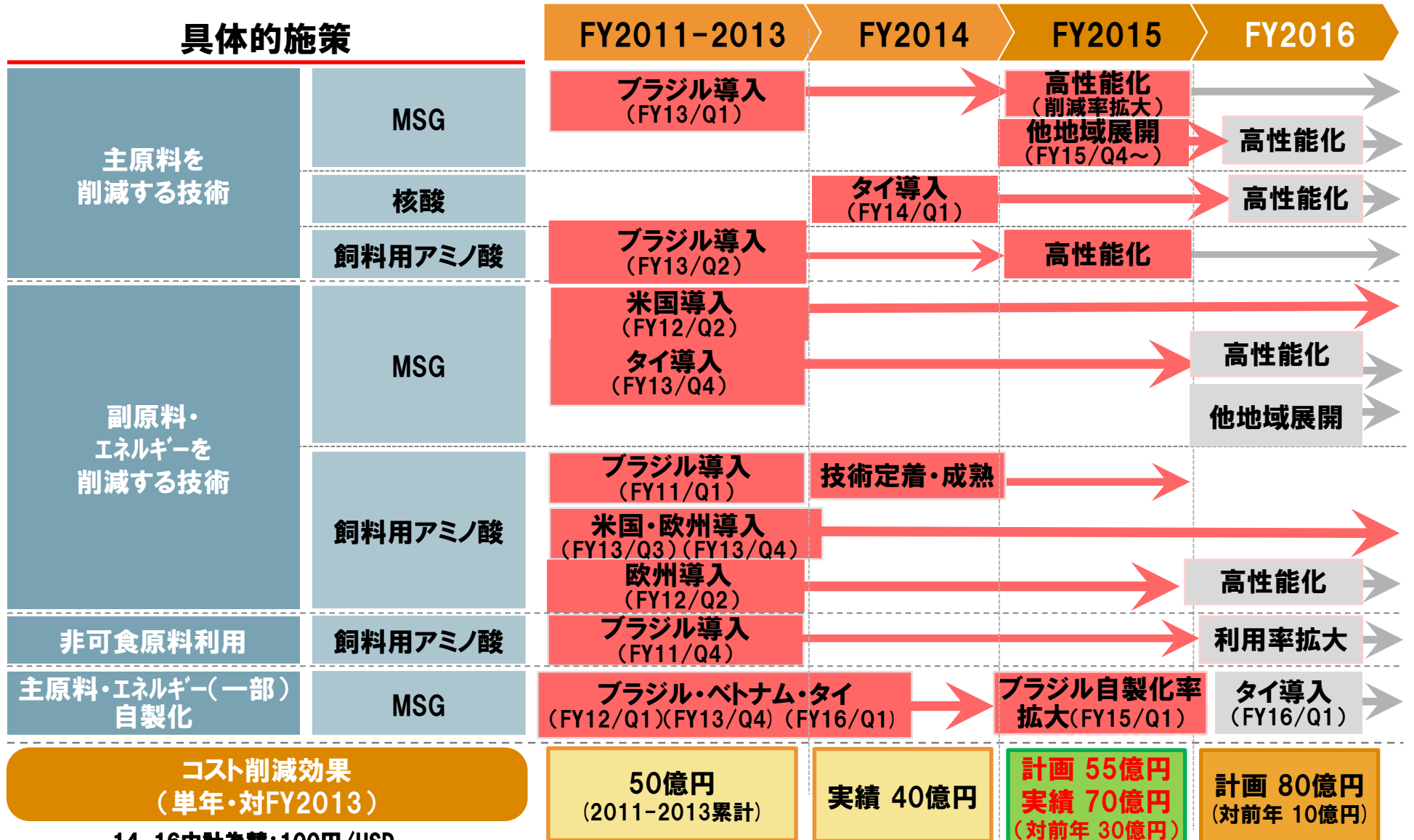
MSG (重量ベース。%)



* 甘味料:海外リテールはFY2016より、海外加工食品(粉末飲料)としてポートフォリオの入れ替えを実施し、事業展開を加速。(数値前提の変更につき、グラフは表示せず。)

低資源利用発酵技術の進捗（R&Dのリーダーシップ）

～2016年度10億円のコスト削減を計画～



14-16中計為替:100円/USD

2017年3月期 修正予想の前提条件等

青字:修正

修正為替レート (対JPY)

	平均レート	営業利益への感度(換算時)
USD	103.5	±1円 →約1億円
EUR	114.5	±1円 →約0.5億円
THB	2.95	±0.01円 →約1億円
BRL	28.7	±1円 →約2.5億円

貿易為替影響(営業利益への感度)

1円安	vs USD	→	+	約0億円
0.1EUR安	vs USD	→	▲	約0億円
1THB安	vs USD	→	+	約5億円
0.1BRL安	vs USD	→	+	約2億円

飼料用アミノ酸

1) 推定市場規模 (千トン)

	FY2014	FY2015	FY2016予
リジン	2,300前後	2,200前後	2,300前後
スレオニン	445前後	480前後	520前後
トリプトファン	23前後	28前後	33前後

2) 当社グループ販売数量 (千トン)

	FY2014	FY2015	FY2016予
リジン	350前後	320前後	330前後
スレオニン	110前後	110前後	110前後
トリプトファン	5前後	5前後	7.5前後

3) 推定市場平均価格 (USD/kg, CIF)

	FY2015	FY2016修正予想**		2016/ 10月度
		1H実績	通期	
リジン	1.25	1.35	1.35前後	1.35
スレオニン	2.3	1.75	1.75前後	1.75
トリプトファン	10	8	8前後	8
スプレッド*	170	220	180-200 前後	190

*スプレッド(USD/ST)：シカゴ商品取引所の大豆粕とコーンの価格差。

**弊社業績予想の前提価格とは一致しません。

貿易為替の影響が大きな通貨の整理

◆取引通貨に対して**輸出拠点の通貨が安いと、営業利益にプラスに影響。**

上期は貿易為替の影響額は1Qと2Qで相殺し、ほぼ無い。1Qは輸出入拠点通貨安（BRL、THB）で益サイドも、2Qは**輸出入拠点通貨高で損サイド。**

輸出入 拠点	取引 通貨	上期実績レート (上段:FY16、下段:FY15)	レート動向 (FY16vsFY15)	利益影響 (輸出時)	主な 輸出入製品
ブラジル (BRL)	USD	1USD = 3.37BRL 1USD = 3.31BRL	USD高 BRL安	プラス	加工用うま味 調味料、 飼料用アミノ酸
	EUR	1EUR = 3.78BRL 1EUR = 3.66BRL	EUR高 BRL安	プラス	加工用うま味 調味料、 飼料用アミノ酸
タイ (THB)	USD	1USD = 35.07THB 1USD = 34.14THB	USD高 THB安	プラス	加工用うま味 調味料、 飼料用アミノ酸
日本 (JPY)	USD	1USD = 105.20JPY 1USD = 121.87JPY	JPY高 USD安	マイナス	加工用うま味 調味料、化成品、 甘味料、冷凍食品、 医・食用アミノ酸
	EUR	1EUR = 118.04JPY 1EUR = 135.11JPY	JPY高 EUR安	マイナス	医・食用アミノ酸、 飼料用アミノ酸
	JPY	1THB = 3.00JPY 1THB = 3.57JPY	JPY高 THB安	プラス	冷凍食品 (製造コストをタイで 円換算し、日本へ輸出)

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO®

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料の金額は、切り捨てで表示しております。